

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月13日

協議会名: 瑞浪市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等            | ②事業概要  | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況  | ④事業実施の適切性  | ⑤目標・効果達成状況  | ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)  |
|----------------------|--|--|--|---|--|
| 【補助対象となる事業者名等の名称を記載】 | 【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】 | 【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】   | A・B・C評価<br>【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】 | A・B・C評価<br>【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】   | 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】<br>※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載   |
| 平和コーポレーション株式会社       | 日吉＝明世ルート   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行うと共に、区長会にてデマンド交通の制度説明及び利用促進のPRを行った。</li> <li>・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市と協議を進め、補助の検討を行った。</li> </ul>   | A<br>計画どおり事業は実施された。  | C<br>1日の稼働便数は6便中1.87便、利用人数は2.75人で、目標値(1日3便、利用人数6人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかった。理由としては、未だコロナ禍の影響によるところがあり、以前の様な高い稼働率に回復するには、まだ時間を要している。地元からの意見では、デマンド交通の制度がわからないといった声もあったので、PR不足も利用者が伸びない原因の一つでもある。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働便数等について、計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るため、引き続き制度周知に努める。</li> <li>・地元要望の集約やアンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。</li> <li>・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。</li> <li>・引き続き区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。</li> <li>・令和5年度にデマンド交通の登録者に対して、回数券を配布し、更なる利用促進を図る。</li> </ul>   |
| 平和コーポレーション株式会社       | 大湫＝日吉東部ルート   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行うと共に、区長会にてデマンド交通の制度説明及び利用促進のPRを行った。</li> <li>・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、令和5年度に策定する地域公共交通計画にて、最も稼働率が低下している大湫地区を重点地区として記載し、今後のデマンド交通の利用促進と合わせて、新たな交通手段も検討していく。</li> </ul> | A<br>計画どおり事業は実施された。  | C<br>1日の稼働便数は6便中1.31便、利用人数は1.73人で、目標値(1日1.5便、利用人数3人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかった。近年、新規での登録者が少なく、コロナ禍以降は利用者が減り続けている。現在は、固定の利用者が定期的に利用しているのみに留まっており、他のルート以上に新規利用者の掘り起こしが必要であると考えている。                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働便数等について、計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るため、引き続き制度周知に努める。</li> <li>・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。</li> <li>・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。</li> <li>・令和5年度作成予定の公共交通計画において、大湫地区を計画内の課題地区として記載し、どの程度のサービス基準が必要であるか等の具体的な目標を設定していく。</li> <li>・地区の取組みとしては、大湫町の広報紙にデマンド交通の利用状況と利用を呼び掛ける記事を掲載している。</li> <li>・引き続き区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。</li> <li>・令和5年度にデマンド交通の登録者に対して、回数券を配布し、更なる利用促進を図る。</li> </ul> |
| 平和コーポレーション株式会社       | 釜戸ルート  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の広報やホームページにてデマンド交通の周知を行うと共に、区長会にてデマンド交通の制度説明及び利用促進のPRを行った。</li> <li>・市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市と協議を進め、補助の検討を行った。</li> </ul>   | A<br>計画どおり事業は実施された。  | A<br>1日の稼働便数は6便中2.08便、利用人数は3.63人で、目標値(1日1.5便、利用人数3人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成することができた。コロナ禍以降でも唯一稼働便数及び利用人数を落とすことなく推移できた。要因としては、釜戸地区で年々デマンド交通の稼働率が上昇していることから、デマンド交通が根付いてきていることが考えられる。また釜戸ルートは他の2ルートと比べ乗合率も高く、利用者は伸びている。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・より高い目標を設定し、今後も利用者の増加を図り、稼働率をあげられるよう、制度周知等に注力していく。</li> <li>・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。</li> <li>・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。</li> <li>・令和5年度にデマンド交通の登録者に対して、回数券を配布し、更なる利用促進を図る。</li> </ul>  |